

「タペストリーに想いを込めて」

加賀友禅作家 浅野富治男



時間が過ぎてゆくのは早いもので「あの日」から12年が経ち、改道、新たな街が出来、震災を知らない子が中学生になりました。

『陸中海岸を訪ねて』 [rikutyu.pdf \(eec-2020.com\)](http://rikutyu.pdf(eec-2020.com)) の冊子を読まれた八木校長先生の感想の中に、震災を知らない子に伝える難しさが書かれてありました。津波伝承館や交流館には沢山の人が訪れています。

「人から学ぶ・物から学ぶ・自然から学ぶ」

これは、漆作家 人間国宝 ^{まつだごんろく}松田権六先生が言われた学びの基本です。高館先生から学校行事の関連資料 [dezainsyu.pdf \(eec-2020.com\)](http://dezainsyu.pdf(eec-2020.com)) を添え、「友禅のタペストリーを創って頂きたい」と依頼されました。

長きに渡って支援活動に共感して下さった皆様方の、そして、歩み続けている自分自身の証としてのタペストリーなのだと思います、私は喜んで創らせていただきました。先生の希望に合った出来具合なのか分かりませんが……。

「虎舞」や「運動会」「演劇発表」などの行事で、躍動感に溢れる子供たちの姿を一コマずつ丸くかたどり、廻りに四季の草花を描き、四本のタペストリーに仕上げました。

一本の棒に通せば、暖簾として、その下を通り抜けられます。その先には、新しい世界があると信じて……。